

教科	工業	科目	繊維製品	単位数	3単位	学年	2学年
学科	繊維デザイン科	教科書	新版テキスタイル製品（実教出版）				
副教材							
学習目標	1. 繊維及び繊維製品について製造方法や製品の特性と社会生活との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 2. 繊維及び繊維製品に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。 3. 多様な繊維及び繊維製品の製造や品質改善する力の向上を目指して自ら学び、繊維産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						

		学習内容	学習活動・学習の狙い	評価の観点			備考	
				知 技	思 判 表	主 体		
1 学 期	4 月	第2章 糸 1節 糸の種類 1. 糸の種類	・糸には数多くの種類があり、その分類も多種多様であるから、分類の項目をしっかりと理解している。	◎		○	・種類名でどんな糸か判断できるようにする。	
	5 月	2節 糸の構造 1. 糸の太さ 2. 糸のより	・繊維の種類によって、糸の太さ（番手）を求める式が異なることを理解している。 ・同じ繊維であっても、糸のより数によって性質が変わることを理解している。	◎	◎		・恒重式番手法と恒長式番手法の違いを理解させる。	
		3節 糸の性能と用途 1. 糸の特性 2. 糸の用途 3. 主要原糸の性能・用途	・糸は原料繊維だけでなく、糸へと形を変えることによって特性が変化することを理解している。 ・用途に応じてより数や強度および光沢などが違うことを理解している。 ・加工糸の種類や特性を理解している。	◎		◎	・各種類の糸をできるだけ多くノートにサンプリングさせる。	
		7 月	4節 糸の試験法 1. 糸の太さ測定 2. 糸のより測定 3. 糸の強さと伸びの測定	・検尺器（ラップリール）の仕組みを理解し、正確に測ることができる。 ・検ねん器の仕組みを理解している。 ・ショッパー型糸引張試験機の仕組みを理解している。	○	◎		・実際に検尺器と電子天秤を使って各種糸の番手を測定する。
	2 学 期	8 月	第3章 布 1節 布 2節 織物の組織と構造 1. 織物組織 2. 織物の原組織 3. 織物の変化組織 4. 織物の特別組織 5. 織物の重ね組織 6. 織物の構造	・布には「織物」「編物（ニット）」「組物」「レース」「網」そして「フェルト」「不織布」があることを理解している。 ・三原組織（平織、斜文織、朱子織）について組織図の書き方や性質について理解している。 ・三原組織の変化組織について理解している。 ・特別組織について理解している。 ・その他の組織にパイル織物があり、その構造を理解している。	○		◎	・各種の布をノートにサンプリングさせる。
9 月		3節 編み物と編み物組織	・織物との違いを理解させる。	◎	◎			
10 月		4節 その他の布類	・織物、編物以外のシート状の繊維製品について理解している。	◎	○		・衣類は昔は自分で作っていたものなので、現代にいたってはかなり発達している。	
11 月		5節 布の性能と用途	・用途によって使用される繊維や糸の種類を変えていることを理解している。	◎	○			
12 月		6節 布の試験	・各種布試験について理解している。	◎		○		
3 学 期		1 月	第4章 繊維製品・新素材・複合材料 1節 繊維製品 2節 新素材 3節 複合材料	・大別すると、衣料と衣料以外のものがあるが、その詳細を理解している。 ・新素材および複合材料の定義を理解している。	◎		○	・身近なものを例にして、理解を深める。
		2 月	第5章 繊維製品の企画と販売 1節 消費者の行動とマーケティング 2節 消費者調査	・消費者行動に影響する要因について考察しようとしている。 ・スマホを使った調査方法を考えようとしている。		◎		・消費者の行動は時代とともに変化していくことを理解させる。
		3 月	3節 製品の企画と開発 4節 衣料品などの製造 5節 アパレル業界の流通 6節 衣料品などの消費	・販売戦略にネットを加えて理解している。 ・OEM生産と自社ブランドについて理解している。 ・製品の耐用年数について理解している。	◎			

※ 評価の観点欄は、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を記入している。

評価方法	・ 考査評価、提出物評価、学習の取込み状況評価などの総合評価とする。 ・ 平常時の授業態度、意欲等の授業に対する取り組みについても評価する。
------	---